

令和 7 年 1 2 月 1 0 日
1 4 : 0 0 ~ 第 6 委員会室

第 2 回議会改革協議会 次第

1 第 1 回議会改革協議会会議録の確認

資料 1

2 議会広報の強化について

(1) SNS を使った情報発信の試行実施の状況

資料 2

(2) 「広報チーム」の設置について

資料 3

3 議員立法の促進について

過去の議員提案の政策条例制定のポイント

資料 4

4 新たな協議事項について

資料 5

5 その他

第1回 議会改革協議会 会議録

日時：令和7年9月8日（月）13:30～14:10

場所：第6委員会室

■出席構成員

会派	構成員	
自民党・無所属の会	田中 元 議員（座長）	菊地 公平 議員
公明党	木畑 広宣 議員	金子 秀一 議員
市民とともに北九州	大久保 無我 議員	泉 日出夫 議員
日本共産党	山内 涼成 議員	永井 佑 議員

■議題

- 1 議会改革協議会について
- 2 議会広報の現状について
- 3 議員立法・政策立案の現状について
- 4 その他

【座長】

○議事に入る前に、議長からごあいさつをいただく。

【議長】

○私は、議員になって21年目だが、変わったなあ実感している。

○何が変わったかっていうと、1つはやはり情報。情報が、昔のテレビと地上波だけであれば、それほど議会のことが分かることはなかったが、今SNSがあるので、結構細かいこと、それも、偏ってるかもしれない情報も含めて流れると、私たちの思いとは別になる。そういう状況が変わったと。

○それに影響して、市民の皆様からも、議員って何してるの、というようなご指摘を受けることが昔に比べて非常に多くなったと思う。

○中々、SNSで議員のことが出るときは、あまり良いことがない。何かやらしたときや、悪いときの情報は非常に流れるが、私達が日々どうしているのかということが、多くの議員さんが真面目に地域を回って、市民のご意見を伺って、それを議会の中で発言して反映させるというような地道なこととか。そのことが、市の政策を動かしているというようなこと、二元代表制だというようなこと、そういうことが中々伝わらないなというふうに思って

- いる。それが1つ、思いがある。
- それと改めて、今思うことは、やはり市民目線。当たり前ではあるが、我々やはり政治家というか、議員をしている中で、今求められていることは、それはもう国政の選挙において、そうじゃないんじゃないかっていう、既成政党に対する見方。
 - 私たち議員が、政党とは別と話しても、より市民目線を向いていかないといけないというようなことを今まで以上に感じている。
 - さらにもう1つ言うと、例えば状況が変わっている。コロナ禍があったりとか、熱中症・温暖化であったりとか、そういう環境も変わっているというようなことも踏まえて、この議会改革協議会で皆様にぜひお願いしたいことは、今まで通り昔の議員のやり方ではもう今通じない世の中になってるなど、私は感じている。
 - ですから、より前向きにより積極的に攻めの改革が、今私たちに求められてるんだろうなというふうに思う。
 - もちろん本市は、今までの議長のリーダーシップのもと、各会派のご協力をいただきながら、不断の議会改革を行ってきたが、早稲田大学の2024年の調査では、議会改革度は福岡県で1位、政令市5位と、高く評価されているが、これで十分ということではないと思う。そのため、皆様の議会改革に期待している。
 - その中で、特に私が2つ強調したい、皆さんに議論していただきたいことのまず1つは広報の強化である。
 - 先ほど申し上げたように、今はそのSNSの影響はもう止められないし、すごく影響があるし、特に政治に関心の低いと言われている若い世代に非常に有効だという風に思う。
 - 私の感覚で言うと、このSNSの議会発信は、今までも議論した中で、やはり公平性とか、公正性とか、そういうところが非常にブレーキになって、中々1歩踏み出せないというところがあったが、もう今はもうそういう時代でもない。
 - 先ほど言ったように、1歩踏み越えて発信していかないといけないと思うので、このSNSをどういうふうに使っていったらいいのか、とかいうようなところをぜひ議論していただきたい。
 - それともう1つ、実は私が議運の委員長をしているときに、議員同士のSNSを通したトラブルの相談を私も受けていた。
 - ただこれは議会外の話なので、議運の委員長としては対応できなかったが、やはり私たち使う側も、議員としてきちんとしたモラルが求められると思うので、この辺も、どういうことが議会としてできるのか、ぜひ議論していただきたい。
 - そうすれば、議会改革度は上がると思うし、SNSを通して、どんどん発信し

- ていくことで、関心を持っていただける可能性、投票率の向上が得られるかもしれないということを、まず1つ考えている。
- もう1つは、この議員立法の促進をぜひ検討していただきたい。
- もちろん私たちの一番の仕事は市政のチェックである。予算を中心とした市政のチェック、これはもちろん一番重要だが、これからの議会は政策立案も。私たちの議会も幾つかの条例は出してきたが、より議会から条例を上げていくという。
- 私たちが、何で57人いるのかというのは、より市民の皆さんの意見を作り上げて拾い上げていくために57人いるわけで、行政的にはできていない条例とかを積極的に作っていけるようにということを目指していきたいなと思っている。
- それには今新しい新人の議員も多いので、まず基本的なことを勉強していただくのが1つ。スキルアップである。
- もう1つは、そもそも議員を支援する体制が今政策調査課にあるが、政策調査課はもちろんだが、その他にも外部、例えば、大学の法律に詳しい学部と連携しながら作っていったり、弁護士などの専門家と協定を結び作っていったり、そういうことも含めて事務局の特に今政策調査課が中心を担っている部分をさらに強化するようなシステムができれば良いと思っている。
- ということで、より、政策形成を簡単に言うと条例を作っていったりとか、そのことで、議会がこういうことをやってるんだよっていうことを市民の皆様にも知っていただく、ご理解いただく1つにもなると思う。
- 当然、議会改革度も上がるし、市民の福祉も向上していくと、議員がこうやって私たちの声を拾い上げて、条例を作っているんだとかいうことがまた伝われば、市民の皆様にも関心を持っていただいて、また投票率の向上にも繋がると思うので、ぜひこの2つを、まず私からは議論していただきたく提案させていただいている。
- もちろんその他にも、それぞれの構成員の皆さんが、この北九州市議会を市民から見たときに、よくやってるなと、こんなことしてるんだなと、市民感覚、そしてその通りだと言ってもらえるような議会改革、攻めの議会改革、ポジティブな議会改革を実現していただきたい。
- 特に座長には大きな期待をしている。
- 私の申し上げたいことは以上である。
- 議会に議会改革協議会ができたから、北九州市議会の議会改革度も上がって、市民の身近な議会だと言ってもらえるように皆さんに活発なご意見していただくことをお願いして、私からの挨拶とさせていただきます。
- どうぞよろしくお願い申し上げます。

1 議会改革協議会について

【事務局】

○資料1により説明

【座長】

○今回の議会関係協議会について、ただいまの説明でよろしいか。(全員了承)

○それでは、その通りさせていただきます。

2 議会広報の現状について

3 議員立法・政策立案の現状について

【事務局】

○資料2、3により説明

【座長】

○まず本日は、議会広報について協議し、議員立法政策立案については次回以降協議したいと思う。それでよろしいか。(全員了承)

○それでは、その通りさせていただきます。

○それでは、議会広報の問題点や課題、今後のあり方などについて、皆様のご意見や、ご質問を伺う。

【公明党】

○市議会だよりは令和元年の6月定例会から編集委員会が立ち上がり、各会派から1名ずつ選任していただいた上で、編集を開始した。この市議会だよりの編集委員会は、現状、市議会だよりに特化している。

○先ほど議長から議会をもっと身近にということで、SNSの更なる活用という話があったが、このSNSも含めて、今後この市議会だよりの編集委員会を発展的に常設の「広報委員会」といった形で、設置を視野に入れて取り組んではいかがかと思っている。

【座長】

○他に意見等ないか。

【自民党・無所属の会】

○SNSは今、色々な媒体がある。本市議会は、YouTube、X、Facebookを活用しているが、特にFacebookは、世の中だいがInst

a g r a mの方に移行されている状況もある。Y o u T u b eも普通のY o u T u b eではなくてショート動画になっていっているということもある。そういったところをもっと活用していくというところで、S N Sもどの媒体を使っていくべきかというようなことも、一旦議論すべきだと思う。

○年配の方は、F a c e b o o k、I n s t a g r a m、Y o u T u b eを利用していなくても、L I N Eは利用しているという方もいらっしゃるので、そういったところを少し分析しつつ、どの媒体が効果的で、どの媒体に特化していくかっていうのを考えてみてはどうかと思っている。

【座長】

○他に意見等ないか。

【市民とともに北九州】

○先ほど、議会だよりの編集委員会を「広報委員会」に発展させるという意見は、イメージとして、S N Sも議会だよりの全部ひっくるめた広報委員会ということか。

【公明党】

○議員が個人的に発信しているものは、どんどん個人的に発信していただいた上で、先ほどの「広報委員会」は、議長、副議長の表敬訪問のような議会全体の発信を、ぜひ発展的にこういう形で発信していったらどうか、という感じである。

【市民とともに北九州】

○それは、かなりボリュームが大きいので、その委員になった人は、市議会だよりでだけでも大変だと思う。何を発信していくのかとかいう選別も、こういう内容で良いのかどうかということも全部「広報委員会」でやるとなると、みんなが集まれる時期じゃないといけないとかもある。そして、集まれるときに決めていくとかなっていくと、段々、然るべきタイミングに発信できないということも、やっぱりあり得るんじゃないかなと思う。

○そのため、S N Sはやっぱり、すぐ発信できるからS N Sの意味があるのだと思う。機動力が、伴わないような感じになってしまうといけないと思う。

【公明党】

○正にそういった内容は、これから、ぜひ議論していかないといけない部分かと思う。当然中身によってはタイムリーに発信しないといけないようなものもあるし、後日発信して大丈夫な内容もあるので、今後検討して、どのような内容を発信していくかということも大事だと思う。

【自民党・無所属の会】

- 自分も同様の意見で、SNSを活用するにあたっては、恐らく全体の合議を取りながらやっていくという事は非現実的で、タイムリー性が著しく欠けてくるため、いかがかと思う。
- そのため、「広報委員会」を作ったとしても、実働部隊を議会事務局の中にきちんと置いて、専任の担当者を付けるぐらいで考えないと、恐らく対応できないだろうと思う。そこまで踏み込んで対応しないと恐らくSNS対策はできないと思う。
- 個人は個人で発信してる部分があるので、皆それぞれ届けたい思いなりメッセージなりあると思うが、またそれとは、何か別の形で、議会そのものを、面白おかしく楽しんでもらえるようなところぐらいから入ってもらって、興味関心を持ってもらうっていうところに特化していくとか。メリハリをつけた運用の仕方なり、その組織の作り方なりを模索していかないと、そもそもSNSは活用できないのではないかなと思う。その辺の組織的なところ、「広報委員会」の中だけで恐らく完結できないという前提で、議論したいと思う。

【市民とともに北九州】

- 広報全体を考えると、それぞれの媒体、SNSだったり、議会だよりはペーパーなので、それぞれ、どういうところにどういうものを届けるのか、きちんと整理をすることが大事だと思う。
- そういう意味では、そのペーパーの良さもあるだろうし、SNSも今言ったように、タイムリーの情報を発信するということも必要だろうと思う。
- それぞれの良さと課題をしっかりと整理すべきかなと思う。

【座長】

- 他に意見等ないか。

【市民とともに北九州】

- 正にそうで、例えば議会だよりは、やはり議会質問のやりとりの話であったり。SNSは、注目のために見てもらうきっかけづくりという感じ。どのSNSを使うかによって、それぞれ役割をきちんと与えて、それを組み合わせて、議会への注目関心を高めていくという筋書きの方が分かりやすいし、それが良いんだろうと思う。
- そういった意味で、先ほど議員が言ったように、誰に向かって発信するのか、どのような話にするのかは重要になってくると思う。
- そういったことは広報委員会で判断しながらやっていくことで良いと思う。

【座長】

○例えば、そのように常設できれば、ということである。

【自民党・無所属の会】

○本当にSNSの活用は興味関心をどうやって引きつけるか、その1点で良いと思う。

○そういう意味では、真面目な内容をただやるのではなく、まず議会はどういうものなのかということを知ってもらえるってところで。大体、市の職員でも、議会事務局に配属されたことがない人は、議会がどういうふうに決まっていっているか、ほとんど興味もないし知らないし、どういうルールで運営されてるのか、市の職員でもみんな知っているわけではない。

○そういった意味でいうと、初めて市議会事務局に配属された若手ぐらいの目線から、議会はこうなっているんだみたいなのを1個1個、ちょっとした、30秒ぐらいのストーリーで紹介していくとか。中には、議長に対してドッキリを仕掛けてもいいし、そういった親しみやすさみたいなところの、惹きつける部分に特化して進めていくのが良いかなと思う。

○結局、おじさんが画面に向かって話しても、誰も聞かないと思う。それよりも、何か若者の感覚で、何か、このおじさん意外とお茶目なんだね、みたいなところ、そういった議会の血の通ってるというところを届ける方が、おそらく今日特に若者の興味関心を引くのではないかなと思う。

○そういったことは、あくまでその入口で良くて、そこからホームページなり、市議会だよりも含めて、それぞれの媒体で発信する内容を少し整理して言って、やっていっても良いのではないかなと思う。

○入口はそのショートで、面白いねって見てもらって、そこからYouTubeでもう少し長い内容を見ていただく。そして、できれば、各議会ごとに、議長が定例会見始めたが、こういった形で今議会のポイントをある程度まとめられるような、発信まで行き着いてもらえれば、それだけでも大分、その市民には届いていくのではないかと考えている。

【公明党】

○「広報委員会」について、すべて議会事務局に投げるのはどうなのかなと思う。

○若手の意見を聞くことも大変大事で、皆さんの興味を議会に集めるのは大事である。

○しかし、議会の誰も及び知らないところで話が進んでいくような形は、議会としてはどうなのかなと思う。

○そのため、いろいろなチャレンジ企画をしても良いと思うが、しっかりと議会が進めているというようにしないと、どこが責任を持って、この発信をして

いるのか、責任の所在になると、それはそれで問題があると思う。その部分を、「広報委員会」等で方針を決めるような形であれば良いと思う。

【座長】

○他に意見等ないか。

【日本共産党】

○議会としてやる以上は、やはり、何を目的にするかということが、最終的にないといけない。

○入口は確かに何でも良いと思うが、何を目的に、これは広報しようとしているのか、そこをはっきりしておかないと、違う方向に行くのではないか。

○例えば、我々議会として、やはり主権者教育にしっかり目を向けているというところが見えてこない、広報の意味はないと思う。

○そういう意味では、他都市の事例等々を見て、どういうふうの主権者教育に取り組もうとしてるのかっていうところは、他都市のやり方等をしっかり学んで、そして、良い取組は取り入れてみたら良いと思う。とにかく良いところだけ取りましょうと。

○よく分からないのは、議会改革度が福岡県内で1位、政令市で5位ということだが、これは何を評価されているのか分からない。例えば市議会だよりは、質問と答弁が列挙されているだけである。何が一体評価されているのか。また、もっと評価されているところはどういう取組をやっているのか、しっかり見ないといけない。それで評価されるのであれば、何でも取り入れてみたら良いのではないかと思う。

○ちゃんと柱をもって、どこに目的を置くんだっていうことを据えて、あらゆることに取り組んだら良いと思う。

【座長】

○何が評価されているのか、事務局に伺う。

【事務局】

○2024年の評価でいうと、日本全国で、「政策力の強化」が57位、「主権者の参画」が300位以下、「議会機能の強化」が133位という評価がついている。

日本全国の議会の中で今の評価項目を足し込んで、北九州市は全国で128番目という順位がついている。

【座長】

○他に意見等ないか。

【日本共産党】

- 広報の強化で、議長の思いで一番大事なことは、議会をもっと身近に、ということだと思う。
- 冒頭の挨拶で議長も言っていたが、議会が何をやってるのか分からないと。
- 議員が何をやっているのか分からないことには、投票率の向上だったり、自分の代わりに仕事をしているんだという思いに繋がっていかないんじゃないかと私も思う。
- 先ほどからSNSの議論があり、何でもやってみる、やり続けるということは非常に大事だが、私の問題意識としてはそれが双方向になっているかということである。市民の皆さんと議会側が双方向になっているかという視点。SNSに関しても、個人的な議員としてのチラシも、議員としての役割で議会の報告をすとか、市民にこんな議論があります、こういう税金の使われ方をしています、と伝えることは、議員個人の責任、議会としての責任ですけど議員個人の責任でもあると思う。それは条例にうたわれていることだから。
- ただ、それをやる場合に、いつも個人的にやっていて課題に思うのは、やはり双方向になっているかというところ。もう1つは、空間の中でよく分からない状態で繋がっていても薄いのではないかと、いつも思う。
- そのため、リアルな状態でいかに繋がって、その延長線上でも、SNSだったり、チラシを見たりしたときに、議員だねと。あの議会だねと感じていただくことが一番、大事なのではないかなと思う。1度2度会って、その後SNSでもチラシでも繋がることできれば、「ああ言った通りにこういう仕事をしてくれてるんだ」とか、「税金のチェックをちゃんとしてくれてるんだ」という実感があれば、身近に感じていただけると思う。投票率の向上という効果について、最初の動きはここだと思うし、ここに繋がっていくだろうということは、個人的な活動の中でも、それは感じることである。
- ただそれを、北九州市議会として、SNSも、いろいろな縛りがあるため、それで本当に双方向になるのかいうことは、非常に大きな課題だと思う。
- そうすると発信というよりは、私は双方向でどこまでやれるか、攻めていくという話は、議長もされたが、そうするのであれば、今日この資料にも書かれているが、議会報告会があるが、コロナで中止になった後、カフェトークの一環で、ライブ中継しながら市民と対話する会っていうのもやったが、もっとリアルな、資料にあるようなチャチャタウンでやったりとか、小倉駅のJAM広場でやったりとか、そういう取組が、まず繋がりを、きっかけを作る上でも、リアルな場っていうのを設けるべきかと思う。

【座長】

- ありがとうございます。
- 短い時間の中でいろいろご意見が出された。

- 当然、個人でやる場合は自分の責任でやりやすい部分もあるだろうが、議会全体でやるとなるといろいろな制限が出てきたり、責任の所在だったり、そういったことがあるということで、大きな問題も課題もたくさん出てきたと思う。
- そういった、本日の皆さんの意見をまずはまとめさせていただいて、こうした意見を、まず事務局の方で整理していただいた後に、また皆さんの方にお返しする。
- その内容を今後改めて協議を深めていって、各会派でご検討いただければと思う。
- なお、日程の詳細は改めてお知らせをしたいと思う。よろしいか。(全員了承)
- それでは、その通りさせていただきます。

【4 その他】

【座長】

- 次にその他について。
- 議長提案の協議事項以外に、各会派から要望があり、全会一致となったものを協議事項に追加できることとなっている。今後協議が必要と思われる事項についても、各会派でご検討をお願いしたいと思う。
- 最後に第2回協議会について、開催日程は事務局に調整させて、決まり次第ご連絡をさせていただく。
- その他ご質問ご意見はないか。(全員、なし)
- それでは、以上で第1回議会改革協議会を終了する。

SNSを使った情報発信の試行実施の状況について（令和7年11月20日時点）

試行実施後、約3カ月（令和7年8～11月）の閲覧数とフォロワー数の前年度比較

■閲覧数

発信内容	発信件数			閲覧数					
				X			Facebook		
	R6	R7	増減 (R7-R6)	R6	R7	増減 (R7-R6)	R6	R7	増減 (R7-R6)
定例会	19	12	▲ 7	6,455	4,115	▲ 2,340	505	1,405	900
委員会	26	30	4	7,823	10,019	2,196	940	2,524	1,584
行事、お知らせ等	2	10	8	1,489	9,173	7,684	94	3,002	2,908
議長・副議長の 出席行事等	—	61	61	—	25,734	25,734	—	13,099	13,099
行政視察受入	—	19	19	—	6,051	6,051	—	1,929	1,929
計	47	132	85	15,767	55,092	39,325	1,539	21,959	20,420

■フォロワー数

SNSの種類	R6	R7	増減 (R7-R6)
X	856	932	76
Facebook	42	75	33
計	898	1,007	109

「広報チーム」の設置について

1 設置の目的

議会広報については、現在市議会だよりをはじめ、XやFacebook、YouTubeなどを活用し、主に本会議や委員会の様子をお知らせしてきた。

市民との協働による開かれた議会を実現するためには、市民により一層、議会や議員について知ってもらい、関心を高めていただく必要がある。

そこで議会広報を一体的、効果的かつタイムリーに展開するための提案等を行う「広報チーム」を設置する。

2 位置付け

議会広報をより強化するための提案や意見を協議する組織とし、協議された提案等については、適宜、代表者会議や議会運営委員会に報告し決定する。

3 任期

2年（初回は令和9年2月まで）

4 構成

4名（所属議員が5名以上の会派から各1名ずつ）

※まずは上記体制でスタートし、少数会派の取扱いは初回の任期内（令和9年2月まで）に「広報チーム」で検討

5 役割

効果的な議会広報の企画立案

6 事務局の関わり

- （1）企画立案を支援する資料作成
- （2）企画立案を実施するための調整（外部との窓口を含む）
- （3）企画立案の実施

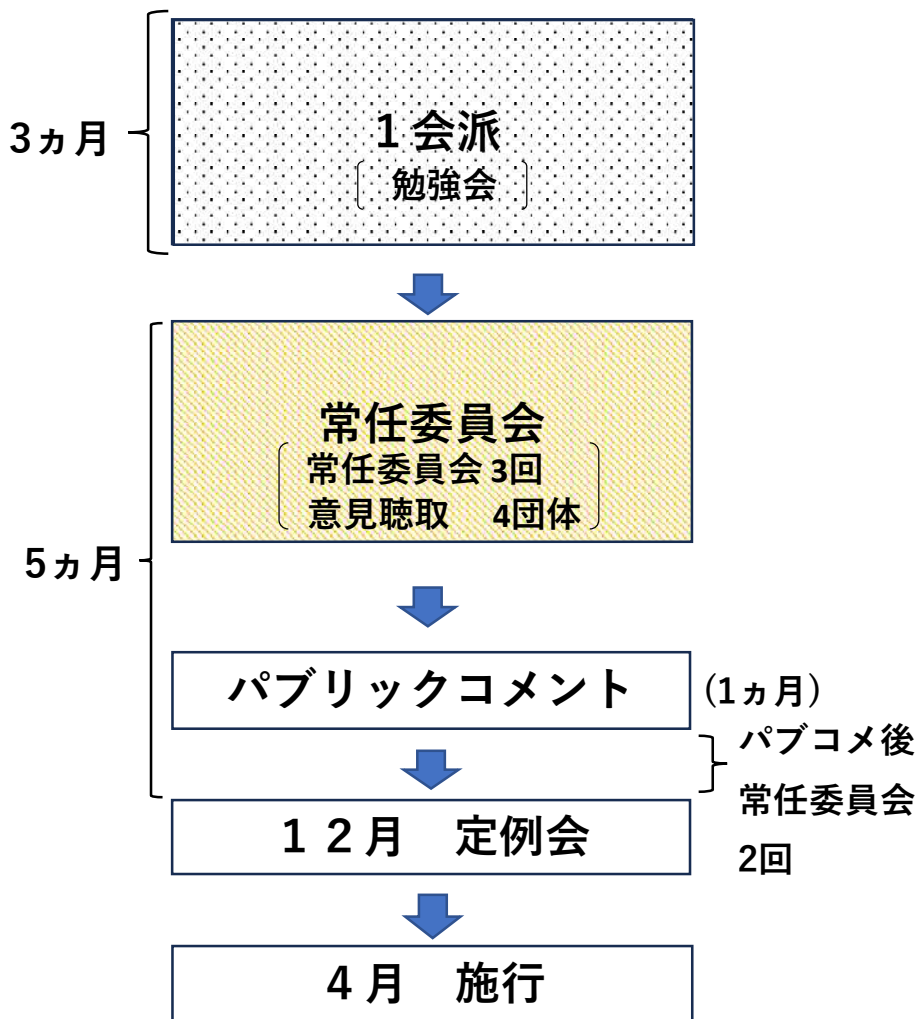
7 設置時期

準備が整い次第

過去の議員提案の政策条例制定のポイント

(中小企業振興条例 平成 2 7 年 4 月施行)

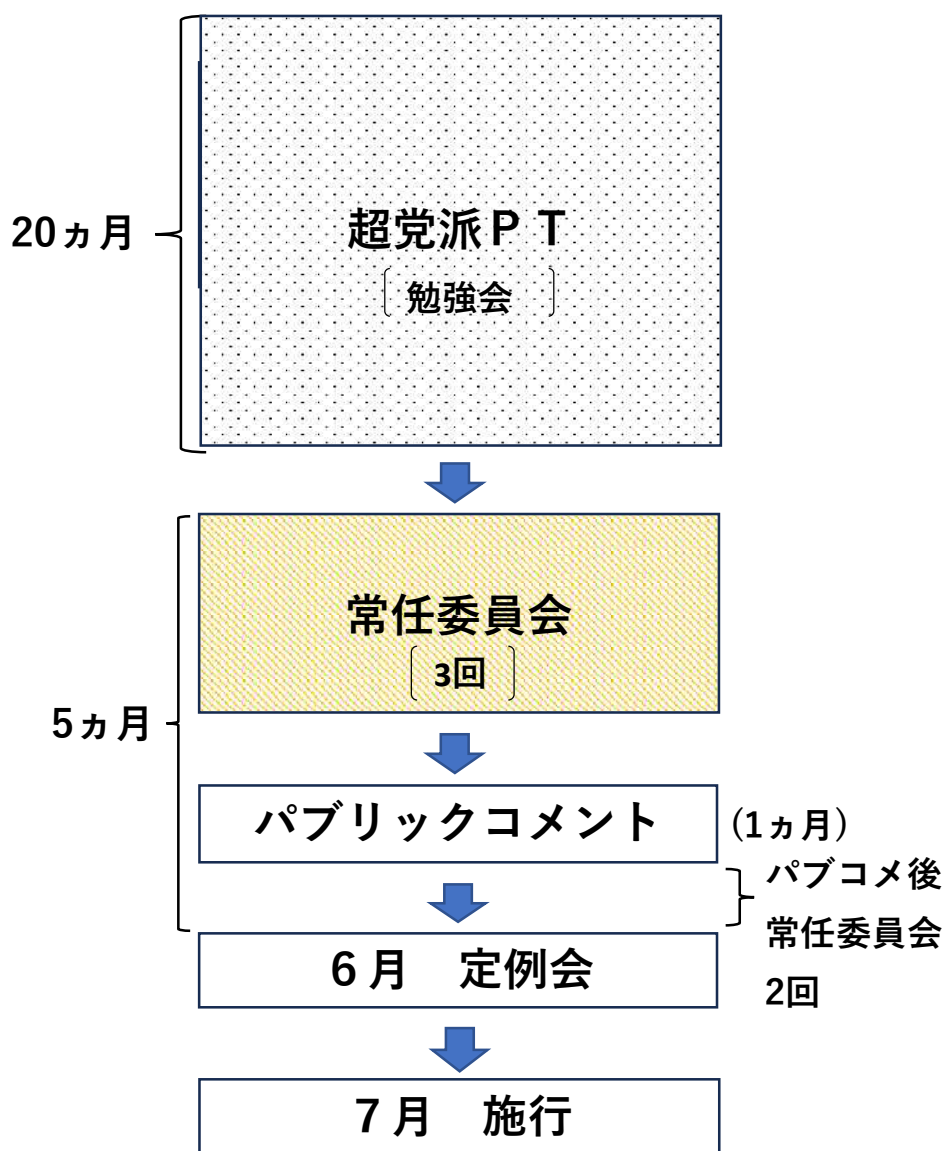
1会派からの発案・常任委員会提案



発案	1 会派からの発案
執行部との協議	常任委員会で 3 回実施
関係団体との協議	常任委員会で 4 団体から意見聴取
会派間の調整	会派間協議を 4 回実施
常任委員会	常任委員会提出議案

過去の議員提案の政策条例制定のポイント (子ども読書活動推進条例 平成27年7月施行)

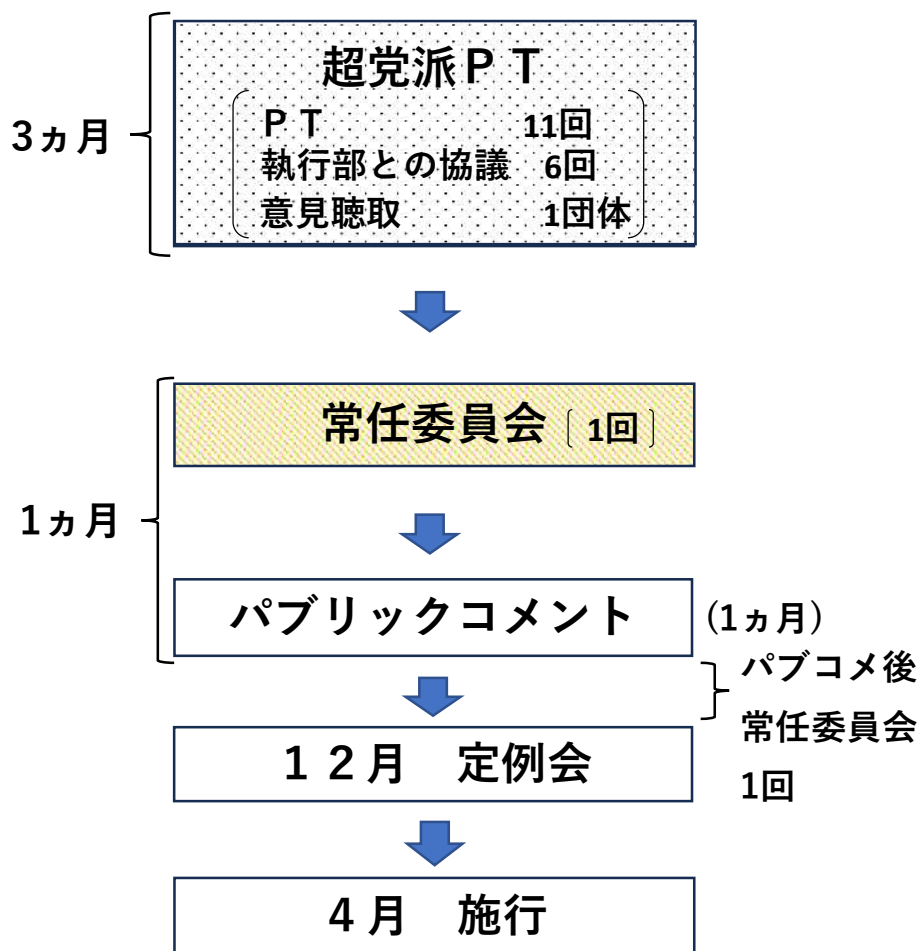
1会派からの発案・常任委員会提案



発案	1会派からの発案
執行部との協議	常任委員会で3回実施
関係団体との協議	なし
会派間の調整	PTで実施
常任委員会	常任委員会提出議案

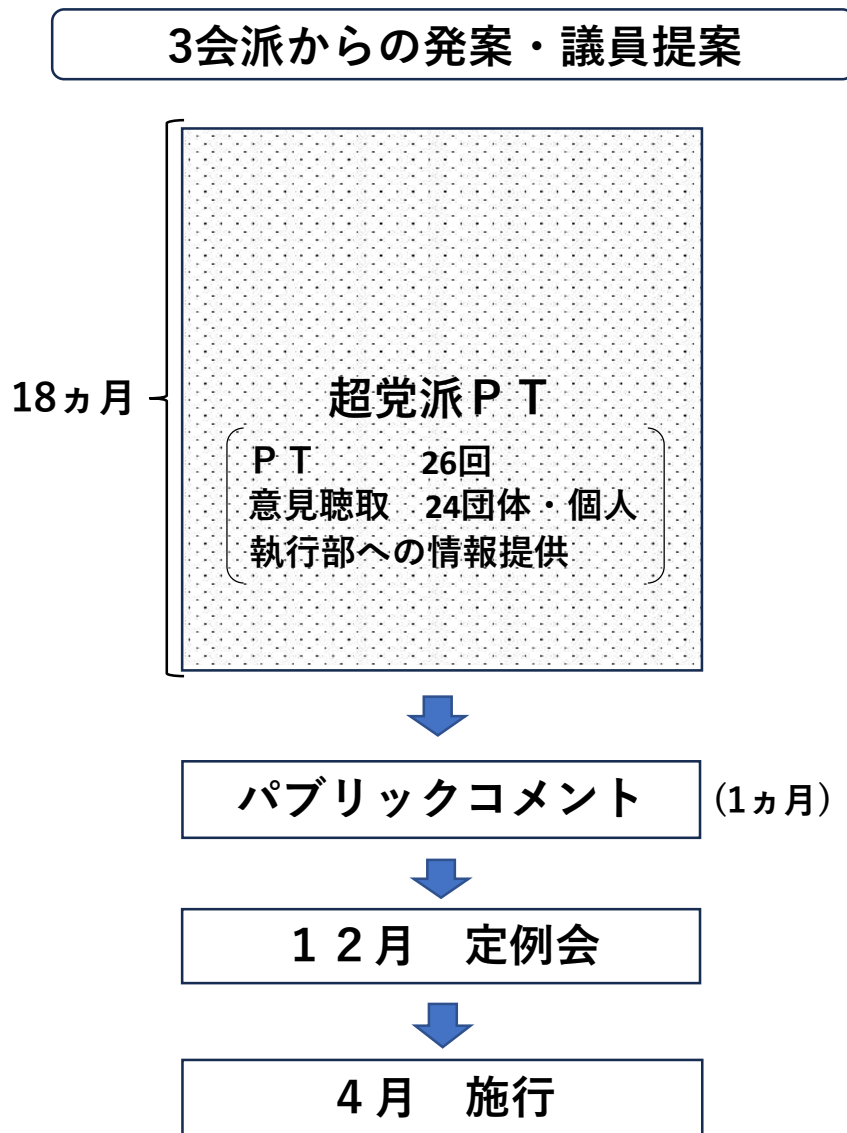
過去の議員提案の政策条例制定のポイント (子どもを虐待から守る条例 平成31年4月施行)

4会派からの発案・常任委員会提案



発案	4会派からの発案
執行部との協議	PTで6回実施
関係団体との協議	PTで1団体から意見聴取
会派間の調整	PTで実施
常任委員会	常任委員会提出議案

過去の議員提案の政策条例制定のポイント (子ども基本条例 令和7年4月施行)



発案	3会派からの発案
執行部との協議	執行部への情報提供を随時実施
関係団体との協議	P Tで24団体・個人から意見聴取
会派間の調整	P Tで実施
常任委員会	付託なし

「新たな協議事項」について

提案者	協議事項	内容
市民とともに 北九州	傍聴者への配慮	傍聴者が議場内で資料を見ることができるようにする。